れば普門院の原本の佚亡せる今日にて侗菴先生手錄の圖書寮本の本書は極めて精確に原著の面影を傳へたるものにして實に天下の孤本として珍重すべきものである。神田文學士その發見の欣を私するに忍びず認許を得て之を排印し、廣く天下の學徒にその欣を分たれたることは學界の美事として大に感謝せなければならぬ。尙ほ本書は非賣品であるが、希望者には實費一冊金八拾五錢送料貳錢を以て京都彙文堂より頒つことゝなつて居る。〔那波〕

◉銅鐸の研究（資料編）　梅原　末治著

本邦の金石並用時代の遺物として特殊の文化的所產とすべき銅鐸の問題は多年、斯學者によりて其の解決に努力されつゝあるが今日尙ほ定說として充分に滿足すべきものに接しない。著者またこの究明に努むること多年、其の解決の基本をなすべきものは考古學的調査の基礎に立つべきものであるとし、卽ち資料の蒐集を第一とし次で考證に移らんとし茲に銅鐸個々の出土狀態、形狀、文樣、化學成分等の特徵を考査し、從來發見せられてゐる凡てを網羅し資料編として提供せられたるものである。著者は次いで考證編を近き將來に提出せらるべきものであるが、今まこの資料編の完成を見たことは實に本邦銅鐸の大蒐成錄として斯界の爲に感謝すべきことである。四六倍版本文的四百頁、圖版約百五十葉を二卷に包括してゐる吾人は著者及び斯學者によゝ從來究明の容易でなかつた銅鐸に對して、最も合理的なる解釋の下さるゝ日の近きにあらんことを喜ぶものである。（東京市外大岡山書店發行、價三〇、〇〇）〔島田〕

◉日本上代文化の考察　中村久四郎　森本六爾著

その內容は之を分ちて前編後編の二部にする事が出來る。其前編は大部分新に執筆されたもので、「上代日本人の櫛と簪」「櫛其他を模した石製品の一群」「古墳發見の鏃」の三編より成るが、その第一は先づ古墳發見の櫛とそれを含有せる古墳並びに伴出物を附記し、埴輪土偶の櫛を觀察し、更に記紀の文獻を涉獵して以て次の「考察」の前提となし、「考察」の項には、種々の點に就て獨自の見解を披瀝して居るが、就中、吾人の注意を惹いたのは古代の櫛の中には流るといふ意味よりも寧ろ留めるとい